

平成25年12月6日

「平成25年度 東日本大震災被災文化財復旧支援事業 - 被災3県の無形文化財への追加助成決定」

公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団(所在地:東京都台東区上野、理事長:宮田亮平、以下「FCHAR」)は、このたび東日本大震災被災文化財復旧支援事業(Save Our Culture、略称SOC)を通じた被災地の無形文化財への追加助成を決定しましたので発表いたします。

助成内容

助成対象：無形文化財(主としてお祭りを対象とし、原則として、これを継承するのに必要な衣装、道具類等有形のもの修理、復旧等)
助成件数：無形文化財14件(岩手県9件、宮城県4件、福島県1件)
助成金：16,030,000円

震災から2年半以上が経過し、緊急支援から復興への過程で、被災者の心の拠り所を取戻し、復興へのエネルギー源となる伝統行事(無形文化財)等の復活が渴望されています。津波被害によりこうした行事を維持、実演するために必要な獅子頭や太鼓、笛、衣装などの道具類の多くが流出してしまった状況の中、今回のような支援は、無形文化財の復旧を促進するものです。

FCHARでは、平成24年度と平成25年度に無形文化財の復旧にかかわる事業を助成し、今回の追加支援を含め、これまでに合計38件、3,334.5万円の助成を実施または決定しました。これらの助成は、個人、団体、企業など多くの方々からの温かいご支援により実現しました。



南部藩壽松院年行司支配太神楽の様子

なお、12月20日(金)には、「文化遺産とまち、ひと、復興」の東京大会(主催:文化庁および一般社団法人気仙沼風待ち復興検討会)が開催されます。SOCでは気仙沼の被災文化財建造物復旧のために助成を行っています。このイベントでは、全国で文化遺産の復旧支援を行う団体が結集し、文化遺産への国民的な支援をよびかけます。当日は、文化遺産の復旧と復興の様子をまとめたパネル展示のほか、女川獅子振りや南部藩壽松院年行司支配太神楽のパフォーマンスも予定されていますので、併せてご案内します。

注1) 東日本大震災文化財復旧支援事業

東日本大震災で被災した文化財の復旧支援活動の一環として、ワールド・モニュメント財団と連携し、被災地域主導による文化財復旧活動を行う事業。現在、広く国内外に支援を訴えるキャンペーンを実施。

<http://save-our-culture.jp/>

注2) ワールド・モニュメント財団(World Monuments Fund:以下「WMF」)

WMFとは、国や文化の枠を超えて歴史的建造物などの文化遺産の保護を行うため、1965年にニューヨーク(米国)に設立された非営利民間組織。www.wmf.org/

注3) 南部藩壽松院年行司支配太神楽(なんぶはんじゅしょういんねんぎょうじしはいだいがぐら)

南部藩お抱え七軒町太神楽を発祥の師として元禄12(1699年)より今日まで伝承されている伝統と格式のある太神楽。平成25年に岩手県無形文化財に指定。震災により太神楽の用具類がほとんど失われた。

お問い合わせ先:

(東日本大震災被災文化財復旧支援事業について)

公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団

専務理事 小宮 浩

事務局長 湯浅 芳雄

電話:03-5685-2311

www.bunkazai.or.jp/

(東京大会について)

気仙沼風待ち復興検討会事務局

気仙沼市教育委員会生涯学習課

担当 幡野

電話:0226-22-6600(124)



平成25年12月吉日

報道関係各位

記者説明会のご案内

「公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団の東日本大震災被災文化財復旧支援事業」

2013年12月20日(金) 14:00～

於：文部科学省東館3階講堂

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また日頃からご支援ご協力を賜り誠にありがとうございます。ごさいます。

さて、当財団は東日本大震災で被災した文化財の復旧支援活動の一環として、東日本大震災文化財復旧支援事業(Save Our Culture:以下「SOC」)と題し、ワールド・モニュメント財団と連携し、被災地域主導による文化財復旧活動を行っておりますが、このたびはバンクオブアメリカ・メリルリンチからの支援を受け、被災3県の無形文化財への追加助成が決定し、12月6日に発表させていただきました。

つきましては、12月20日(金)に下記のとおり、報道関係の皆様を対象に、SOCの活動、これまでの成果、今後の展望についてご説明させていただきたく、ご案内申し上げます。当日は、文化庁やバンクオブアメリカ・メリルリンチからゲストをお迎えするとともに、今回の助成対象である南部藩壽松院年行司支配太神楽の代表にもご出席いただきます。また、記者説明会後には年行司太神楽の団員へのご取材時間を設けさせていただき予定。年末の時期でご多用中とは存じますが、ぜひご出席賜りたくご案内申し上げます。

なお、準備の関係上、**12月13日(金)**までに添付のFAX用紙またはメールにて出欠をご連絡くださいますようお願い申し上げます。

敬具

公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団

記

<記者説明会の詳細>

日時： 2013年12月20日(金) 14時～15時
(13時半受付開始)

会場： 文部科学省東館3階講堂
(東京都千代田区霞が関三丁目)

東京メトロ銀座線「虎の門駅」11番出口より徒歩1分
東京メトロ丸ノ内線、千代田線、日比谷線「霞ヶ関駅」
A13番出口より徒歩5分

出席(敬称略):

- | 文化庁文化財鑑査官 大和 智
- | メリルリンチ日本証券株式会社
投資銀行部門公共法人部長 林 礼子
- | 南部藩壽松院年行司支配太神楽 神楽衆 笹山 政幸
- | 公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団
専務理事 小宮 浩
- | 公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団
事務局長 湯浅 芳雄



お問い合わせ先: ウェバー・シャンドウィック・ワールドワイド 藤崎、大坂、斉藤

電話: 03-5427-7326 / 03-5427-7372 / 03-5427-7386

kfujisaki@webershandwick.com

宮城 → 東京 → 宮城 リレー イベント

文化遺産とまち、ひと、復興

東京大会



受け継ぎたい大切なふるさと

ふるさとで親しまれたお祭りや伝統行事、ふるさとの風景をつくる歴史的建造物や町並み・・・
 東日本人震災で傷ついた多くの文化遺産が、いま支援を受けながら復旧の途上にあります。
 このイベントでは、文化遺産が「こころの復興」に果たす役割をアピールし、さらなる支援を広く呼びかけます。
 文化遺産の復旧に取り組む、市民、市民団体、専門家、企業や財団、自治体の皆さん、東京大会に結集してください！

東京大会 シンポジウム

12月20日(金)
16時～19時15分
(無料、15時受付開始)

文部科学省東館3階講堂
(東京千代田区豊島三丁目)

大会に先立ち、会場ロビーでは、被災地の文化遺産の被災と復旧を取材したパネルの展示が行われます(15時～)
 会場内では、支援を受けて復旧しつつある東北の伝統芸能のパフォーマンス

(女川獅子振り、南部藩蔭松院年行可支配太神楽)も行われます(16時～)

基調講演「文化遺産の復旧の意義、それを支える多様な主体(仮)」(17時～シンポジウム開始)

- 文化庁長官 青柳正規
- ワールド・モニュメント財団 副理事長 ヘンリー・エンジャー (米国ニューヨーク)

現地からの報告

- 気仙沼内湾地区における歴史的建造物の復旧、地域の伝統的な祭礼の復旧、ふるさとの資源

ディスカッション「ふるさとの文化遺産の復旧のためにできること」

- ふるさとの文化遺産の担い手が結集します。
地域のお祭りや伝統行事、歴史的建造物や町並み、先人の暮らしの痕跡が残る遺跡などから、人々に受け継がれた生活文化、大切なふるさとの記憶にいたるまで。
- 多様な役割、立場の人、団体が結集します。
市民、市民団体から、自治体職員、専門家、企業や財団にいたるまで。
- 皆が集まり、多様な活動について報告し、連携して取り組むことを決意表明します。

東京大会に係る
お問い合わせ先

一般社団法人気仙沼復興まち復興検討会 事務局 担当:気仙沼市教育委員会生涯学習課 横野 TEL:0226-22-6600(内線124) FAX:0226-23-0943
 ※リレーイベント全体に関するお問い合わせ:WMA事務局 担当:三浦、和田 MAIL:wadam@wma.jp

主催:文化庁、一般社団法人気仙沼復興まち復興検討会
 協賛:ワールド・モニュメント財団(米国)、フリーマン財団(米国)、SDC(東日本大震災被災文化財調査・復旧推進事業)
 特別協力:西原中興株式会社、日本郵船、バンクオブアメリカ・メリル・リンチ



公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 記者説明会
「公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団の東日本大震災被災文化財復旧支援事業」

2013年12月20日(金) 14:00～

於：文部科学省東館3階講堂

FAX: 03-5427-7322

ウェーバー・シャンドウィック・ワールドワイド 藤寄、大坂、斉藤

電話：03-5427-7326 / 03-5427-7372 / 03-5427-7386

<記者説明会> (14:00開始)

ご出席 ご欠席

<「文化遺産とまち、ひと、復興」東京大会> (16:00開始)

ご出席 ご欠席

カメラ撮影を希望される場合は、以下についてお知らせください

スチール (台) ムービー (台)

貴社名： _____

貴部署名/役職名： _____

貴媒体名： _____

(ふりがな)

ご氏名： _____

ご連絡先： TEL _____

FAX _____

Email _____